

千葉市美術館企画展「とある美術館の夏休み」を開催します ～現代を生きる表現者たちが新たな美術館の見方を提案～

千葉市美術館では、企画展「とある美術館の夏休み」を以下のとおり開催しますので、お知らせします。

本展では、現代美術家だけでなく編集者、雑貨店など14組の多彩な表現者の作品と、千葉市美術館のコレクションをあわせて展示し、美術館という場所や日常の中の表現を見つめ直します。

開催に先立ちまして、7月15日（金）15：00から記者の皆さまへの説明会を実施しますので、ぜひ取材にお越しくください。

- 1 会期** 令和4年7月16日（土）～9月4日（日）
休館日 8月1日（月）
※休室日 7月25日（月）、8月15日（月）
- 2 会場** 千葉市美術館（中央区中央3-10-8）
- 3 主催** 千葉市美術館
- 4 ポイント** ◆14組のアーティスト、クリエイターが千葉市美術館所蔵の名品とコラボ
本展では、14組の現代美術家やクリエイターが、千葉市美術館の約1万点のコレクションから作品を選び、ともに展示することで新たな作品を構成します。所蔵作品からは伊藤若冲、田中一村、河原温、杉本博司など近世から現代まで、千葉市美術館のコレクションを代表する作品が登場。現代美術家だけでなく、編集者、デザイナー、また雑貨店などさまざまな表現者たちの目を通して、コレクションや美術館、日常の表現について考え直す機会となります。
※参加アーティスト／クリエイター一覧は別紙のとおり

◆美術館という場所を考える

中崎透、ミヤケマイ、清水裕貴、津田道子の4名の現代美術家が、展示ケースや学芸員、監視員といった普段展覧会であまり意識されることのない存在を新作インスタレーションに組み込み、千葉市美術館の所蔵作品ともに展示。作品だけでなく美術館をとりまく要素に目を向け、美術館という場所を見つめ直します。

◆所蔵された作品と出会い直すこと

2017年と2019年にそれぞれ千葉市美術館で個展を開催した小川信治おがわしんじと現代アートチーム目[mé]は、その際美術館に所蔵された自身の作品と再び対面し、新たなインスタレーションを制作します。以前行われた展覧会から、作家自身の作品への見方はどのように変わるでしょうか？

◆日記、コピー、匂い、雑貨…日常の表現を見つめる

本展では、美術館のような場所だけでなく、日々の生活の中でも多様な表現が生まれていることに注目します。日々の生活や感覚を日記というかたちで表現するきぐう編集室や、毎日決まった時間にコピー機で自分の顔や手を印刷する井口直人いぐちなおと、場所や時間、記憶を匂いという切り口で捉え表現する井上尚子いのうえひさこ。展覧会の最後は、みなさん懐かしの文化屋雑貨店が千葉市美術館のコレクションを元にユニークな雑貨を制作。時代を飛び越えるようなキッチュな文化屋雑貨店らしい空間を生み出します。表現者たちによって連綿と続く日々の制作を紹介し、鑑賞者のみなさんの日常のなかにも表現のかたちを発見する機会となるでしょう。

- 5 観覧料 一般 1,200円(960円)、大学生 700円(560円)
※ 小・中学生、高校生および障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料。
※ ()内は前売券、市内在住65歳以上の方の料金。
※ 前売券は、ローソンチケット、セブンイレブン(セブンチケット)、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口にて7月15日まで販売(7月16日以降は当日券販売)。
※ ナイトミュージアム割引：金・土曜日の18時以降は観覧料半額
- 6 関連イベント 展覧会に関連した講座やライブパフォーマンス、ワークショップを開催。
- 7 その他 本展のチラシ別添

「とある美術館の夏休み」披露説明会 開催概要

日時 7月15日(金) 15:00から
場所 千葉市美術館 8階展示室
内容 展覧会や主な展示作品の見所について担当学芸員からご説明いたします。

<本件に関するお問い合わせ先>

千葉市美術館 担当学芸員 畑井 恵
広報担当 磯野 愛
〒260-0013 中央区中央3-10-8
電話 043-221-2311
FAX 043-221-2316
E-Mail isono@ccma-net.jp